

刺網によるニゴロブナ漁獲物調査

根本守仁

1. 目的

資源管理型漁業を推進するうえでの基礎資料とするため、ニゴロブナの主要な漁法である刺網漁での漁獲物の調査を行った。

2. 方法

調査は、平成 29 年 3 月 13 日に、竹生島の南の水域（水深 92m）で刺網により漁獲されたニゴロブナ 86 尾を対象に実施した。

標本は、冷凍保存とし、解凍後に体長および体重を計測した。また、開腹して性別を判定し、生殖腺の発達状況を観察するとともに、取り出して重量を測定した。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

年齢および性別の個体数および割合を表 1 に示した。雌雄別にみると、雌が 78 尾で全体の 91% を占めていた。年齢組成について、雌雄ともに 1～6 歳魚まで漁獲されていたが、最も多かったのは 3 歳魚で全体の 28% であり、次いで 5 歳魚、4 歳魚であった。本年度は、漁獲されたニゴロブナのうち高齢魚の占める割合が高いことが、特徴として挙げられた。

雌の成熟状況について、生殖腺の外観から、未発達：透明で卵粒が見えない、成熟 1：うすだいたい色で卵粒が見える、成熟 2：不透明な黄色で卵粒が見える、成熟：透明な黄色で卵粒が見える、の 4 段階に区別された。外観での評価と GSI(体重に占める生殖腺重量の割合)は、未熟が $0.72 \pm 0.22\%$ (平均値±標準偏差)、成熟 1 が $1.49 \pm 0.63\%$ 、成熟 2 が $3.64 \pm 1.04\%$ 、成熟が $13.56 \pm 4.13\%$ であった。雌の年齢別の生殖腺の外観から評価した成熟状況を図 1 に示した。採卵期直前の 3

別の個体数および割合

年齢	個体数			割合		
	雌	雄	計	雌	雄	計
1	3	0	3	3%	0%	3%
2	11	0	11	13%	0%	13%
3	23	1	24	27%	1%	28%
4	14	3	17	16%	3%	20%
5	17	1	18	20%	1%	21%
6	10	3	13	12%	3%	15%
計	78	8	86	91%	9%	100%

月中旬であっても、1 歳魚は 3 尾ともすべて未熟であった。また、2 歳魚以上のすべての年齢においても卵巣が十分に発達していないもの(未熟、成熟 1、および成熟 2)がみられ、その割合が 2 歳魚では 55%、3 歳魚では 39%、4 歳魚では 21%、5 歳魚では 30%、6 歳魚では 20%であった。

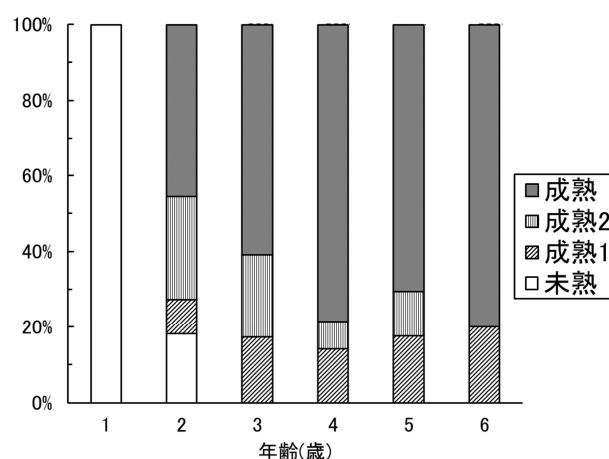


図 1 刺網で漁獲されたニゴロブナ雌の年齢別の生殖腺の発達状況